

東海丘陵湧水湿地における変遷の一事例 - 大森湿地群

河合和幸

(株式会社 テイコク)

1. はじめに

岐阜県および愛知県に点在する東海丘陵湧水湿地群の中で、岐阜県東南部には生態系的に貴重な湧水湿地が多数存在するが、それらの衰退が危惧されている(河合 2012)。また、湧水湿地の社会的な認知不足等が課題となっている(河合 2013、2014)。今回、その一事例として岐阜県可児市の大森湿地群について、その変遷を整理した。

2. 大森湿地群の歴史と分布の変遷

大森湿地群が所在する一帯は、土岐砂礫層の丘陵部に立地し、13 世紀前半の鎌倉期中世窯業の産地として栄えたと推定される(可児市教育委員会 1985)。すでにこの頃に湧水湿地周辺は粘土の採掘場として利用されていたのではないかと考えられる。

可児市では 20 世紀後半に多くの湿地が開発されたが、最近の報告では、大森湿地群として可児市大森・柿下地区を中心に 14 カ所 延べ 21 個の湿地が現存している(NPO 可児ネイチャークラブ 2014)。

3. 植生および湿地性昆虫の変化

湧水湿地には特殊な動植物が生息するが、徐々にそれらが消えつつある。大森湿地群について一例を挙げれば、植物では 1970 年代まで存在したミカワシオガマ(環境庁 1979)が消滅し、昆虫では 1980 年代まで確認されたコキマダラセセリ(林 1986)が見られなくなった。さらに、湧水湿地の代表種であるヒメヒカゲの分布縮小が明らかになった。そのほか講演では特定の湿地について植生の変化を経年的に調査した結果も発表する。

【参考文献】

可児市教育委員会(1985)大森奥山古窯跡群発掘調査報告書. 可児市教育委員会

河合和幸(2012)岐阜県東濃地方における湧水湿地群の現状.

日本湿地学会第4回大会プログラム・講演要旨集 P15. 日本湿地学会

河合和幸(2013)岐阜県における湧水湿地の保全. 日本湿地学会第5回大会プログラム・発表要旨 03 日本湿地学会

河合和幸(2014)岐阜県東濃地方における湧水湿地群の現状. 湿地研究 Vol.4 No.1 日本湿地学会

環境庁(1979)日本の重要な植物群落-東海版.大蔵省印刷局

林 英昭(1986)東濃地方の蝶(I). 未発表資料

NPO 可児ネイチャークラブ(2014)大森湿地群の動植物.可児市



大森湿地群を構成する代表的な湿地